



# FREE TIBET

## 上野の森美術館「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」展 入場者に対して チベットを悟ってもらう運動

チベット経「般若心経」は7世紀にインドからチベットに大乘仏教が伝わったとき、それに深く帰依されたソンツェンガンボ王が自分たちが持たない文字を作ることを命じ、インドより伝えられた「経」の持つ本当の「言霊」(おと)を書き伝えております。

日本の「経」は中国において一度「中国語」に翻訳され、それを「音よみ」しています。

日本ではチベット仏教(大乘仏教)をラマ教などと呼び、一種独特の扱いを受けたこともあったようですが

本当は古来のインドで絶えた「仏教」を伝えているのです。

チベットの根幹をなす仏教については、戦前日本人には情報がなかなか入らなかった上に、戦後中国共産党の成立と共に、植民地化され1959年ダライラマ14世と共に8万のチベット人がチベットを離れた時にさえ、なかなか助けを差し伸べることはできませんでした。第二次世界大戦前に中国において日本政府、日本軍が行ったことの「しよく罪」だったのかも知れませんが、長い間“中国の国内問題”として「政府」「野党」「マスコミ」「文化人」が繰り返し中国共産党に協力し、多額な“ODA 支援”を与えてきました。その間行われたのが共産党による、宗教迫害を含めた「文化革命」であり、人民解放軍によるウイグル、チベット、モンゴル地域における「原子爆弾の実験」でした。

文化革命以前でも“宗教を百害”とする人民解放軍により「仏像本体」の金、仏具の金製品の没収や宝石で出来た「仏像の目」の解体、等蛮行を行い文化革命時代には「チベット自治区(TAR)」の僧院と尼僧院の97%、TAR以外のチベット地域の僧院と尼僧院の98~99%が無人化ないし廃墟化してしまいました。

(本来のチベットは自治区+四川、甘粛、青海、雲南の各省を含むものであります)後にチベット亡命政府の宗教・文化省が集計したところでは、全チベットの6259カ所の僧院、尼僧院のうち、破壊を免れたのは8カ所だけだったという報告があります。今回の展示物の「仏像」「仏具」「絵画」等の中にはこういった背景の中で「寺院」から持ち去られたものも多数あります。仏教を根絶やしに、扱ってきた中国共産党政府が「天空の至宝」として日本に持ち込んだチベットの宝の数々、仏像においては過去において行われた仏教への弾圧を象徴するものであります。

徹底的に破壊されたものは寺院だけではなく、信仰そのものを無きものとしてチベット仏教の象徴であるダライラマ14世の肖像写真、肖像画を飾る事の禁止、ならびに所持の禁止を今も行っております。今回の展示会に「ダライラマ14世」がチベット仏教を象徴するものとして、肖像がお奉りされていないだけでなく、この50年の歴史が法王関係の記述とともに抜け落ちております。大勢の僧侶、尼僧が寺をまもり、仏像の破壊を防ぐために命を落とし、あるいは中国に楯突いたとして刑務所に閉じ込められ、残酷な拷問をうけた歴史の重さが今回持ち込まれ日本を旅している展示物にあります。

自由社会人として中国共産党がチベットで行ってきた非人道的な数々の悪行を非難すると共に、チベット文明、文化を根絶やしにするべく、「チベット社会や仏教寺院から盗んだものを“至宝”として我々に見せる恥知らずな行動」を糾弾しなければならぬ事をみなさまにお伝えいたします。

我々「パルデンの会」は名前の由来である、パルデン・ギャツォ師が33年間、獄に繋がれて受けた数々の拷問を思い出し、

今回日本に持ち込まれた仏像とそれを守って、死んで行った僧や尼僧そしてチベット市民の精霊に対して、

期間中 上野の森美術館入り口にある 上野・天台宗寛永寺の開祖である天海僧正の毛髪塔前をお借りして、 甲いのチベット経の「般若心経」を供え、「至宝展」入場者 及び関係者に展示物が抱えている大きなチベットの叫びを伝えたいと思います。

by チベット支援「パルデンの会」(Free Tibet Palden)

(我々は特定の宗教団体、政治団体に属するものではありません)

参照国際 HP <http://www.seichi-tibet.com/>

<http://www14.ocn.ne.jp/~palden1/>

記 2009. 8

新

